

都道府県立図書館での医中誌 Web の提供について

山下ユミ

京都府立図書館

公共図書館が提供する情報には、医療・健康情報が含まれる。市民が健康・医療情報を調べたいと思うとき、古くなった知識や、現在では行われていない治療の情報などは役に立たず、害がある場合もあるため、できるだけ新しい情報を提供することでニーズを満たすことができる。最新の信頼できる医療・健康情報を得ようとする場合、雑誌論文やデータベース等の情報を、図書資料と併せて利用することが望ましい。そういった情報入手できるのは、一般市民にとって一番身近な場所は公共図書館、中でも都道府県立図書館であると考えられる。

公共図書館は、一次資料である医学分野の雑誌については十分に所蔵していない場合もあるが、大学図書館など、所蔵している図書館につなげることができる。そこで、まずは文献データベースを提供して、検索結果から必要な文献を特定し、一次資料につなげるという役割を積極的に果たしていくべきである。

京都府立図書館では、医中誌 Web を契約して提供しているが、一般市民の利用は多くない。その理由はいくつか考えられるが、一つの理由として、公共図書館で医中誌 Web を提供する場合に、このデータベースの特長を活かしきれていないということがある。医中誌 Web の検索結果からオープンアクセスになっている電子ジャーナル文献へのリンク、また、電子ジャーナル文献を閲覧できた場合に、その文献をプリントアウトして提供できているかといったことが、大学図書館と比較して公共図書館で十分に提供されていない可能性がある。

そこで本研究では、この問題にフォーカスして、都道府県立図書館で医中誌 Web を導入している館を対象に調査を実施することとした。公共図書館における医中誌 Web の提供は、大学図書館や病院図書室における提供とは異なるものであり、今後、どのように情報を提供していくことが望ましいのかを提案できればと考えている。